



## シルクロードと一帯一路 (モンゴルの世界帝国建設)

9月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2022年9月11日(日)

そして後漢の時代(AD25年～220年)、班超が西域都護府を支配し、その使節をローマ、シリアへ派遣して、東西の関係は絶えることはなかった。4世紀末のフン族(南匈奴系)の西進に解発されたゲルマン民族のローマ帝国内への移動もその一つとも言える。

12～13世紀にチンギス・ハンに率いられて、当時の世界の大部分を席卷したモンゴルは、東の中国と西の地中海世界を結ぶ「草原の道」を支配することによって、ユーラシア大陸に一大世界帝国を建設した。

このとき、シルクロードは、ユーラシア大陸全体を見渡せる一つの世界図として我々の眼前に姿を現した。

チンギス・ハンとその子孫に率いられたモンゴルの世界征服の原則は解り易いものであった。

モンゴルに降服せず抵抗する者は全て抹殺する。無条件で降服した者は簡単な人頭税を課して存続(自治)を許す。

チンギス・ハンは大遠征ののち、遠征した領土をジョチ(長男)、チャガタイ(二男)、オゴディ(三男)に与え、モンゴル本土は末子相続の原則により、トルイに与え、子供たちは東欧、中央アジア、中国に帝国を築いた。

世界の歴史に果たしたモンゴルの役割は、世界を一つのものとしたことである。それまで二つ又は三つの世界が分立していた。それは春秋戦国時代を統一した秦の始皇帝の中国世界、ギリシア、ローマの地中海世界、世界文明の発生地である中東世界であった。モンゴルが統一し、その後に世界は分立して世界の国々が現れた。

そして、現代の国境線の多くはモンゴルの征服により決められた。

シルクロードという世界を一つのものとする領土と精神の実現はモンゴル帝国によってなされ、その精神はそれ以後に引継がれたと言える。

参照：Wikipedia、シルクロードの旅 陳舜臣著（2021年講談社）モンゴル帝国の興亡 岡田英弘著（2014年筑摩書房）